

表1 日本の薬系大学の「ドライラボ」(2012.3調査)

(寺岡章雄, 津谷喜一郎, 日本の薬系大学における「ドライラボ」の過去・現在と今後の課題 薬史学雑誌, 2012; 47(1): 67-89 より)

[1] 国公立大学17校 (設立順)

大学名・設立年・設立者	講座・分野	設立年	Website と 備考
東京大	1873 国 医薬政策学(寄)	2001	薬学系研究科・寄附講座(教授: 津谷喜一郎, 助教: 五十嵐中), 医薬品経済評価(方法論の開発/評価の応用), ぐすりギャップ, 代替医療の評価の方法論と合理的使用, など
	2001-06は医薬経済学(寄)	2002	薬学系研究科・寄附講座(教授: 木村廣道, 講師: 榎田祥子), 日本の医薬品・ライフサイエンス産業研究, 日本のヘルスケア産業研究, ライフサイエンス, ヘルスケア領域における産学連携と新産業創生の研究, など
	ファーマコビジネス・イノベーション(寄)	2004	薬学系研究科・寄附講座(教授: 澤田康文, 兼任准教授: 堀 里子, 講師: 三木晶子, 助教: 佐藤宏樹), 医薬品・健康食品の有用性・安全性情報ネットワークの構築, 新規医薬品情報を創製するための研究, など
	医薬品情報学(寄)	2005	薬学系研究科・講座(兼任教授: 杉山雄一, 客員教授: 藤原康弘, 准教授: 小野俊介, 助教: 草間真紀子), 総長裁量経費で設立, 薬事関連行政のパフォーマンス評価に関する研究, ドラッグラグとその要因の解析, 日本の治験実施体制・関連規制に関する研究, など
	医薬品評価科学		薬学部付属薬害研究施設が1966-1976に存在(粕谷豊) http://www.f.u-tokyo.ac.jp/
金沢大	1876 国 国際保健薬学	2000	大学院医学研究科薬学系・研究室(教授: 木村和子, 准教授: 清水栄, 准教授: 坪井宏仁, 助教: 吉田直子), 偽造医薬品の蔓延とその対策に関する研究, 個人輸入医療品の保健衛生に関する研究, セルフメディケーションに関する薬剤師への教育的介入の研究, HIV自己検査キットの保健衛生に関する研究, など http://www.p.kanazawa-u.ac.jp/
名古屋市立大	1884 公 構造薬学	2002	薬学研究科・分野(講師: 黒田良孝), Linuxに代表されるオープン・ソース・ソフトウェアを活用した情報処理教育に有効な教育方法の研究 など
	医薬品安全性評価学	2010	薬学研究科・分野(教授: 頭金正博), 大規模医療情報を用いた副作用発生の実態調査と薬剤疫学的研究, 医薬品の国際共同開発の推進を目指した東アジアにおける民族的要因に関する研究, など 名古屋市立大学は国立医薬品食品衛生研究所と連携大学院の協定を締結。同大学はこれを機に, レギュラトリーサイエンス領域での研究を推進する意向(薬事日報2011.6.17報道) http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/
熊本大	1885 国 薬剤情報分析学	2003	生命薬科学専攻 医療薬学講座・研究室(教授: 入江徹美, 准教授: 入倉充, 助教: 石坂洋一), 在宅医療における患者のQOL向上を目指した薬学的取り組み, 災害時における救急医療に関する薬学的調査研究, など http://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/
京都大	1889 国 (医薬産業政策学(寄))		2012年4月, 薬学研究科に「医薬産業政策学」の寄附講座(教授: 柿原浩明)を開設予定 http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/
千葉大	1890 国 高齢者薬剤学	2001	薬学研究科・研究室(教授: 上野光一, 講師: 山浦克典, 助教: 佐藤洋美), 地域医療連携に関する研究など
	実務薬学	2009	薬学研究科・研究室(教授: 関根祐子, 助教: 増田和司), 根拠に基づいた医薬品の適正使用に関する研究
	(医薬品情報学)	2010	医薬品情報学研究室が1997-2010に存在(上田志朗)
	(国際臨床開発・規制科学(寄))		薬学研究院・講座(教授: 黒川達夫, 研究員: 濱田和真) http://www.p.chiba-u.ac.jp/
東北大	1890 国 医薬開発構想(寄)	2003	寄附講座(教授: 今井潤, 客員教授: 竹内和久, 客員教授: 戸恒和人, 客員准教授: 大久保孝義, 客員准教授: 藤原正子, 講師: 菊谷雅浩, 分野研究員: 浅山敬), 日本人における高血圧関連遺伝子の探索及び薬剤疫学に関する研究, 服薬コンプライアンスの評価および改善に関する研究
	地域薬局学(寄)	2009	寄附講座(兼任教授: 富岡佳久, 客員教授: 大野武, 客員准教授: 山家靖, 准教授: 星友典) http://www.pharm.tohoku.ac.jp/
長崎大	1890 国 医療情報解析学	1999	医歯薬学総合研究科 生命薬科学専攻・研究室(教授: 中島憲一郎, 准教授: 和田光弘, 助教: 池田理恵), 医薬品の有効性や副作用など医療に関する情報を収集し, EBMIに則った医薬品情報であるかの解析, 薬剤師会と協力し医薬品の適正使用状況などの調査研究, など http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/
富山大	1893 国 (-)		2005年富山医科薬科大を富山大に統合 新富山大学 http://www.pha.u-toyama.ac.jp/
静岡県立大	1916 公 医薬品情報解析学	05-06*	臨床薬学大講座・分野(教授: 山田浩, 講師: 小菅和仁), EBMと生物統計学に基づいた臨床研究評価・解析法に関する研究, CRC(clinical research coordinator)の教育・養成に関する研究, 医薬品および食品の有効性・安全性情報の評価・解析に関する研究, など
	実践薬学	2008	臨床薬学大講座・分野(教授: 並木徳之, 講師: 内田信也, 講師: 加藤安宏, 助教: 田中紫茉莉), 医療費原価分析に基づく実用化製剤の開発とジェネリック医薬品の臨床評価など
	薬局管理学(病院・社会薬学)	2008	臨床薬学大講座・分野(准教授: 前田利男, 助教: 谷澤康玄) 病院・社会薬学研究室が1996-2004に存在(横田正實) http://pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/
徳島大	1922 国 医薬品情報学	1996	薬学研究科・分野(教授: 山内あい子, 准教授: 佐藤陽一), 医薬品安全性情報コミュニティの構築, 医薬品適正使用に向けた疫学的研究など(初代教授は木原勝) http://www.tokushima-u.ac.jp/ph/
岐阜薬科大	1932 公 実践社会薬学	2007	薬学科実践薬学大講座・研究室(教授: 杉山正), 実践的・効率的な薬剤師教育に関する研究, 医薬品の個別適正使用に関する研究, など
	医薬品情報学	2001	薬学科実践薬学大講座・研究室(准教授: 中村光浩), ITを活用した医薬品情報システムのデザインなど(創立時講師: 酒向孫一) 2010年11月医薬品医療機器総合機構(PMDA)と連携大学院協定を締結 http://www.gifu-pu.ac.jp/
大阪大	1949 国 医療薬学	05-06*	薬学系研究科・実践薬学教育研究センター・分野(教授: 上島悦子), 薬剤疫学, 医療経済学, EBM, リスク管理, 新たな医療教育システムの開発
	情報・計量薬学	1998	薬学系研究科情報・計量薬学分野(教授: 高木達也, 助教: 岡本晃典, 助教: 川下理日人), ノンパラメトリック回帰法に関する研究と薬学, データ解析への応用, 薬剤疫学研究, など http://www.phs.osaka-u.ac.jp/index.cgi
	2009までは医薬情報解析学		
九州大	1950 国 臨床育薬学	2009	薬学研究院・分野(准教授: 鳥添隆雄, 准教授: 窪田敏夫, 助教: 小林大介), 薬学教育における教育システムならびに評価法の確立

		(薬剤疫学)	薬剤疫学研究室が2002(佐々木茂貴), 2005教員名簿なく不明, 2006-2008に存在(鳥添隆雄) http://www.phar.kyushu-u.ac.jp/
北海道大	1954	国 医薬品リスク管理学(寄)*	2007 薬学研究院・医療薬学・寄附講座(客員教授:大谷喜一, 客員准教授:林 紘司, 特任助教:吉田和幸), 調剤過誤防止システムの研究 http://www.pharm.hokudai.ac.jp/
岡山大	1969	国 医薬管理学 救急薬学 (医薬情報学)	2005 医歯薬学総合研究科(薬学系)・分野(准教授:北村佳久, 助教:小山敏広), 薬剤師業務の患者治療における貢献の重要性についての研究など 2012 共同通信2012.3.26報道:2012年3月創設, 医歯薬学総合研究科(薬学系)・分野(准教授:名倉弘哲) 医薬情報学研究室が1995-2007に存在(綿矢有佑) http://www.pharm.okayama-u.ac.jp/
広島大	1969	国 (社会薬学)	1977-2002 医学部総合薬学科に社会薬学講座, 2005 医学部総合薬学科が薬学部部に改組し, 旧講座を引き継いだ生体機能分子動態学研究室が「学部名称」として「社会薬学講座(太田研)」を用いている http://www.hiroshima-u.ac.jp/pharm/

[2]1983年以前設立の私学29校(設立順)

大学名・設立年・設立者	講座・分野	設立年	Website と 備考
東京薬科大	1880 私 社会薬学 一般用医薬品学 薬局管理学 医療人間関係学 医薬品情報解析学 (科学史学)	2006 2008 2009 05-06* 2003	薬学部医療薬学科・研究室(准教授:宮本法子), 薬学生による「小学生等に対するくすり教育」の出前授業と資料・教材の作成, 地域保健医療の担い手としての薬剤師の役割, 医療裁判を教訓として薬剤師の使命を考える 薬学部医療薬学科・教室(教授:渡辺謙三, 助教:成井浩二), 一般用医薬品とセルフメディケーションの情報提供法の開発, など (05-06* 寄附講座として存在, 海老原格) 薬学部医療薬物薬学科・講座(助教:岡田寛征, 助教:和久田光宣) 05-06* 薬学部医療衛生薬学科・研究室(教授:土屋明美) 2003 薬学部医療薬学科・教室(教授:土橋朗, 助手:倉田香織), 保険薬局における処方歴と薬歴から医薬品使用の実態を解析, 日米における医薬品使用の実態や医療制度を比較・検討 科学史学教室が1971-1991に存在(川瀬清) http://www.toyaku.ac.jp/
京都薬科大	1886 私 (-)		http://www.kyoto-phu.ac.jp/
明治薬科大	1902 私 社会薬学 社会学 医療コミュニケーション学 医薬品評価学 治療評価学 医薬品安全管理学 公衆衛生・疫学	2005 不明 不明 2006 2006 2010 2010	薬学部リベラルアーツ・研究室(教授:古澤康秀) 薬学部リベラルアーツ・研究室(講師:小松楠緒子), 医療社会学分野における研究など 不明 薬学部リベラルアーツ・研究室(准教授:町田いづみ) 2006 薬学部医療薬学系・研究室(教授:渡邊誠), 日本の臨床試験の実態調査と分析など 2006 薬学部医療薬学系・研究室(教授:伊東明彦), 糖尿病などの治療薬・治療法の調査研究など 2010 薬学部医療薬学系・研究室(教授:遠藤一司) 抗がん剤などの医薬品を安全に効果的に用いる方法などの研究 2010 薬学部健康・環境薬学系・研究室(教授:赤沢学, 助教:庄野あい子), 大規模データベースを用いた医薬品の有効性・安全性・経済性の評価研究など http://www.my-pharm.ac.jp/
大阪薬科大	1904 私 (-)		http://www.oups.ac.jp/
星薬科大	1921 私 (-)		http://www.hoshi.ac.jp/
東邦大	1926 私 薬事法学	2004	薬学部医療薬学教育センター・研究室(准教授:秋本義雄), 薬に関わる医療過誤裁判等から本来薬剤師が果たすべき法的責任を検証し, 実務に活かすための研究, 薬剤師業務におけるリスクマネジメントについて法律面も考慮した立場から研究 http://www.phar.toho-u.ac.jp/
昭和薬科大	1930 私 医療薬学教育研究 臨床心理学	1999 2008	医療薬学教育研究センター・医薬情報評価教育・戸田研究室(教授:戸田潤), 薬剤経済学に基づく薬物治療の選択など 医療薬学教育研究センター・医薬情報評価教育・串田研究室(講師:串田一樹), 在宅医療システムの構築と薬局機能など 2008 基礎薬学教育研究センター・研究室(教授:吉永真理), 青少年の地域参画と自己効力感など http://www.shoyaku.ac.jp/
神戸薬科大	1930 私 社会科学	2008	薬学部・研究室(准教授:松家次朗), 倫理的問題の特質の解明, 医療専門職の社会的責任など http://www.kobepharm-u.ac.jp/
慶応義塾大 (2008.3までは 共立薬科大)	1930 私 社会薬学 医薬品情報学 実務薬学 臨床薬物評価学 レギュラトリー・サイエンス	1991 2007 2000 2004 2011	薬学部・研究室(教授:福島紀子, 助手:岸本桂子, 助手:詫間浩樹), 講座のテーマは社会薬学の活動を通して学ぶ薬学 2007 薬学部・研究室(教授:望月真弓, 准教授:橋口正行) 医薬品情報の創出・評価・活用 2000 薬学部・研究室(教授:木津純子, 助教:寺島朝子, 助教:前澤佳代子) エビデンスに基づく医薬品適正使用 2004 薬学部・研究室(教授:諏訪俊男, 准教授:千葉康司, 講師:松嶋由紀子) 医薬品開発, とりわけ臨床薬物評価に関する理論と実際 2011 薬学部・研究室(教授:黒川達夫) 社会において新薬を最も安全かつ有効な形で活用するための方法の科学的究明 http://www.pha.keio.ac.jp/
東北薬科大	1939 私 医薬情報科学 法学	2006 1990	薬学部臨床薬学系・教室(教授:佐藤憲一, 助教:川上準子, 助教:星憲司, 助手:青木空真)数理科学や計算科学をベースとした診断支援, 医薬品情報活用など 1990 薬学部総合科学系・研究室(教授:石澤淳好) 薬事関係法規の基本構造など (1990薬事関係法規(佐藤継雄)) http://www.tohoku-pharm.ac.jp/new/index.cgi
日本大	1952 私 薬事管理学 1956-86は経営学研究室 1986-89は薬事経済学研究室 セルフメディケーション学 医療コミュニケーション学	1956 2004 2010	薬学部応用薬学系・研究室(教授:白神誠, 専任講師:泉澤恵, 助教:小野寺祐加), 研究テーマは薬剤経済学の実践, 薬剤師業務の評価/薬局の評価, 薬事関連制度の分析・評価の3領域が柱 (1956-82中村泉美, 1982-2001中村健) 2004 薬学部実践薬学系・研究室(教授:安川憲, 助教:野伏康仁) 2010 薬学部実践薬学系・研究室(教授:亀井美和子, 助教:渡邊文之), 薬物治療を行う患者・

			看護者の支援	
	医薬品評価科学	2011	薬学部実践薬学系・研究室(教授: 日高慎二, 専任講師: 荒川基記), 医薬品の価値や研究開発の諸相の分析	
	病院薬学	05-06*	薬学部実践薬学系・研究室(教授: 中村均, 准教授: 濃沼政美), 統計的なデータ解析に基づき, 社会科学的および臨床薬学的な研究を实践	
	薬学教育	2004	薬学部基礎薬学系・研究室(教授: 小池勝也, 教授: 高島亨)	
	法学	不明	薬学部教養系・研究室(准教授: 小野健太郎), 民事責任の成立要件や法律効果などを分析 http://www.pha.nihon-u.ac.jp/	
名城大	1954 私 医薬品情報学	2000	薬学部薬学科・研究室(教授: 後藤伸之, 助教: 大津史子), 医薬品適正使用に関する研究, 医薬品副作用情報データベースの開発研究, など(創立時助教授: 稲垣員洋)	
	健康薬学	2003	薬学部薬学科・研究室(教授: 西田幹夫), 薬剤師職能を科学的に支援拡大するための研究	
	病院薬学	2003	薬学部薬学科・研究室(教授: 亀井浩行, 助教: 半谷真七子), 薬剤師と患者のコミュニケーションに関する研究, 臨床薬剤師教育を推進するための方法論に関する研究(初代教授: 松葉和久)	
	臨床医学	2004	薬学部薬学科・研究室(教授: 吉田勉), 臨床薬剤師養成のための臨床医学教育技法の開発など	
	臨床経済学	2007	薬学部薬学科・研究室(教授: 坂巻弘之), 医薬品政策に関わる研究, 医療技術評価 http://www.yaku.meijo-u.ac.jp/	
近畿大	1954 私 公衆衛生学	84以前	薬学部医療薬学科・研究室(教授: 川崎直人, 助教: 緒方文彦), 生活習慣と疾病との関連性評価, 医療費削減のための医薬品の処方解析, など	
	臨床薬剤情報学	2007	薬学部医療薬学科臨床薬学部門・分野(教授: 高田充隆, 准教授: 北小路学, 准教授: 細見光一, 助手: 八軒浩子), 薬剤疫学研究, 地域医療連携に関する調査研究など	
	2007-8は臨床薬学	2009	薬学部医療薬学科臨床薬学部門・分野(教授: 松山賢治, 准教授: 大島徹, 特任助手: 村上悦子, 兼任講師: 石渡俊二), ジェネリック医薬品の評価研究など http://www.phar.kindai.ac.jp/	
	医薬品評価解析学			
第一薬科大	1960 私 社会薬学	2009	臨床薬学講座・分野(教授: 吉武毅人, 講師: 小武家優子), 薬剤師を取巻く社会的な環境やニーズの変化を調査し, 今後の薬剤師職能のあり方について研究する。 http://www.daiichi-cps.ac.jp/	
東京理科大	1960 私 太田研究室	不明	薬学部薬学科・医療薬学系(医薬品情報学研究室)(准教授: 太田隆文), 調査研究も実施	
	砂金研究室	不明	薬学部薬学科・医療薬学系(医薬品安全性学研究室)(准教授: 砂金信義) 文献調査も実施	
	伊集院研究室	不明	薬学部薬学科・医療薬学系(薬局管理学)(実務家教員教授: 伊集院一成)	
	上村研究室	不明	薬学部薬学科・医療薬学系(薬局管理学)(実務家教員教授: 上村直樹)	
	鹿村研究室	不明	薬学部薬学科・医療薬学系(薬局管理学)(実務家教員教授: 鹿村恵明)	
	後藤研究室	不明	薬学部薬学科・医療薬学系(コミュニケーション学)(実務家教員教授: 後藤恵子)	
	土谷研究室	不明	薬学部薬学科・医療薬学系(病院管理学)(実務家教員教授: 土谷隆紀)	
	(社会・情報薬学)		社会・情報薬学研究室が2004-2006に存在(鈴木潤三) http://www.ps.noda.tus.ac.jp/yakugakubu/	
福岡大	1960 私 医薬品情報学	1995	研究室(教授: 小野信文, 教授: 原周司, 助教: 木村公彦, 助教: 松本太一), ジェネリック医薬品の情報収集と調査研究など	
	薬学疾患管理学	2002	研究室(教授: 片岡泰文, 准教授: 道具伸也, 准教授: 首藤英樹, 准教授: 山内淳史, 准教授: 今給黎修, 准教授: 富永宏治, 講師: 小田真稔, 他助教7名), 薬学疾患管理のモデルシステムの組み立て, 更年期における薬物療法の問題点など http://www.pha.fukuoka-u.ac.jp/	
武庫川女子大	1962 私 (-)		http://ph.mukogawa-u.ac.jp/	
北里大	1964 私 中毒学	1995	薬学部臨床薬学教育センター・研究ユニット(准教授: 福本真理子), 中毒の初期処置に関するガイドラインの標準化の検討, 一般市民向け中毒防止活動のための啓蒙システムの構築, など(初代教授は小鴨晃)	
	社会薬学	2008	薬学部薬学教育研究センター・部門(教授: 鈴木順子, 助教: 深町伸子, 助教: 喜来望), 薬学分野の中に社会学の視点を取り入れ, 人を育てる有効な方法を探る, 地域医療のなかで様々なスタッフと薬剤師が効果的に連携するための研究, など	
	保険薬局学	2004	薬学部臨床薬学教育センター・臨床医学大講座・研究室(教授: 吉山友二, 講師: 川上美好, 助教: 宮崎智子, 助教: 有海秀人), 地域の医療・保健・福祉における薬剤師職能の支援に関する研究(創立時助手: 城戸美好)	
	臨床統計学	1999	薬学部臨床薬学教育センター・臨床医学大講座・研究室(教授: 竹内正弘, 専任講師: 高橋史朗, 助教: 井上永介, 助教: 道前洋史)	
	医薬開発学	05-06*	薬学部臨床薬学教育センター・臨床医学大講座・研究室(教授: 竹内正弘, 准教授: 成川衛), 製造販売後調査のデザイン, 東アジア地域における国際的な医薬品開発, など	
	医療心理学	2007	薬学部薬学教育研究センター・部門(准教授: 有田悦子, 助教: 田辺記子), 医療人としてのヒューマニズム養成教育に関する研究など http://www.kitasato-u.ac.jp/pharm/	
昭和大	1964 私 社会薬学	2006	薬学部・薬学的臨床研究教育センター・教室(併任教授: 山元俊憲)	
	臨床薬学	1992	薬学部・薬学的臨床研究教育センター・教室(教授: 山元俊憲, 准教授: 小林靖奈, 助教: 神山紀子, 助教: 大林真幸), 患者情報に関する調査研究など(初代教授は黒岩幸雄) http://www.10.showa-u.ac.jp/pharm/	
徳島文理大	1972 私 医療薬学	不明	薬学部・大講座(教授: 岡野善郎, 庄野文章, 中田素生, 瀬川正昭), 病院薬剤部と調剤薬局との連携を強化する研究, へき地医療における薬剤師の役割に関する研究, など http://p.bunri-u.ac.jp/	
神戸学院大	1972 私 社会薬学	2006	薬学部薬学科・部門(社会薬学は部門名, 衛生化学, 医療薬学, 生物化学など) 1983-2001管理薬学(藤井正美, 赤穂栄一) http://www.kobegakuin.ac.jp/~pharm/	
北海道医療大	1974 私 薬事法制度	不明	薬学部衛生薬学講座に属する3つの領域の1つ(准教授: 森本敦司) http://www.hoku-iryō-u.ac.jp/~pharm/	
城西大	1973 私 医薬品情報学	1998	薬学部薬学科・研究室(教授: 小林大介, 准教授: 大嶋繁), データマイニングによる情報解析(初代教授は齋藤侑也)	
	生物統計学	2007	薬学部薬科学科・教室(教授: 寺尾哲, 助教: 田中亨, 助手: 長嶋健吾), 薬剤疫学, 個別化医療のための研究デザインと統計解析法, など	
	医薬品安全性学	2008	薬学部薬学科・研究室(教授: 金本郁男, 助教: 井上裕, 助手: 村田勇), 医療安全に根ざした医薬品の評価・医薬品情報の活用, など http://www.josai.ac.jp/~facpharm/	
北海道薬科大	1974 私 薬事管理学	2002	薬学科社会薬学系・分野(教授: 早瀬幸俊, 准教授: 櫻井秀彦, 准教授: 野呂瀬崇彦, 講師: 牧野高社), 薬局業務の評価に関する研究, 薬局業務のIT化に関する研究	
	地域医療薬学	不明	薬学科社会薬学系・分野(教授: 古田精一, 准教授: 村上美穂, 講師: 伊東佳美, 講師:	

薬学情報解析学 公衆・環境衛生学 薬学教育	不明	不明	不明	柳本ひとみ), 地域医療における薬剤師の役割に関する研究 薬学科社会薬学系・分野 (教授: 黒澤菜穂子, 准教授: 岡崎光洋, 講師: 梅田純代) 不明 薬学科社会薬学系・分野 (教授: 丹保好子, 講師: 立浪良介) 不明 薬学科薬学教育系・分野 (准教授: 石突諭, 准教授: 川嶋恵子, 准教授: 高梨香織, 講師: 伊藤三佳, 講師: 大野裕昭, 講師: 小林弘幸)
薬局管理学 (薬学概論)	不明	不明	不明	薬学研究科臨床薬学分野 (教授: 早瀬幸俊, 准教授: 村上美穂) 薬学概論研究室が1998-2002に存在(伊藤敬一) http://www.hokuyakudai.ac.jp/
北陸大	1975	私 (-)		http://www.hokuriku-u.ac.jp/dept_pharmacy/
帝京大	1977	私	(薬業経営論)	薬事日報電子版2012.321報道: 帝京大4年制大学院薬学研究科とPMDAは連携大学院協定を締結, 2012年4月以降大学院生の教育研究や相互の人的交流について, 連携・協力する薬業経営論研究室が1998-2004(*05)に存在(水戸和夫) http://www.pharm.teikyo-u.ac.jp/
新潟薬科大	1977	私	社会薬学 情報薬学 (薬学概論)	2011 薬学部・研究室 (教授: 藤原英俊) 2011 薬学部・研究室 (准教授: 土橋洋史), 医薬品副作用症例データベース(DB)を構築・活用 薬学概論研究室が1988以前-2002に存在(多村憲) http://www.nupals.ac.jp/
福山大	1982	私 (-)		http://www.fukuyama-u.ac.jp/pharm/
摂南大	1983	私 (-)		http://www.setsunan.ac.jp/~pharm/

[3]2003年以降設立の私学28校 (設立順)

大学名・設立年・設立者	講座・分野	設立年	Website と 備考
就実大	2003 私 (臨床医薬品評価学)		薬事日報電子版2012.321報道: 就実大4年制大学院医療薬学研究科とPMDAは連携大学院協定を締結, 2012年4月疾病治療薬学専攻に臨床医薬品評価学を開設, 医療現場の臨床試験研究体制, 国内外の医薬品の評価体制などを研究課題にする計画 http://www.shujitsu.ac.jp/category/department/yakugaku
九州保健福祉大	2003 私 薬学情報学 (教員名簿)	2003	薬学情報学研究室 (教授: 松岡俊和), 薬学・化学領域における高度知識情報処理 教育情報基盤の構築と薬学教育への適用 http://www.phoenix.ac.jp/faculty/p_sciences/
日本薬科大	2004 私 (-)		http://www.nihonyakka.jp/
千葉科学大	2004 私 (-)		http://www.cis.ac.jp/information/introduction/pharmacy/
城西国際大	2004 私 (-)		http://www.jiu.ac.jp/pharmacy/
広島国際大	2004 私 (-)		http://www.hirokoku-u.ac.jp/faculty/y/
帝京平成大	2004 私		2012年4月から4年制の大学院薬学研究科・薬学専攻(博士課程)を開設. 研究分野は, 大きく医療系薬学(創薬・橋渡し研究)と社会系薬学(医療実践研究, 医薬評価・規制研究)に分けられる. 研究テーマとしては, 医薬品の医療技術評価のための医薬経済及び薬剤疫学研究, 医薬品の製造販売後の適正使用に関する調査研究, 医薬品の開発の立案・評価に係る研究, など 研究テーマとしては, 地域医療に貢献できる薬剤師のコミュニケーションに関する研究, 地域医療における薬剤師職能の開発, など http://www.thu.ac.jp/faculty/pharmacy/ph_index.html
武蔵野大	2004 私 (連立大学院) (一般用医薬品学)		薬事日報2011.6.13報道: 武蔵野大学と医薬品医療機器総合機構(PMDA)は2011年6月, 連携大学院協定を締結, 今後レギュラトリーサイエンスへの対応を強化する 2009 一般用医薬品学齊藤洋退職 http://www.musashino-u.ac.jp/faculty/pharmacy/
徳島文理大香川	2004 私 医療薬学	2004	薬学部・大講座 (教授: 二宮昌樹, 飯原なおみ, 横田ひとみ), 薬剤疫学, 副作用見守りシステム, 病院・診療所と保険薬局の連携システムの構築, など http://kp.bunri-u.ac.jp/
青森大	2004 私 [社会薬学担当教員] 社会薬学(教員名簿)	2010	薬学部薬学科教授 嶋田雄介, 専門分野: 社会薬学, 研究内容: 社会において果たすべき薬局, 薬剤師等の責任, 義務等, 及び社会貢献の必要性を理解するために, 薬学を取り巻く法律, 制度及び経済等に関する知識・情報, あるいは地域社会活動について調査・研究する http://www.aomori-u.ac.jp/pharmacy/
奥羽大	2005 私 (-)		http://www.ohu-u.ac.jp/faculty_pharmacy_pharmacy.html
国際医療福祉大	2005 私 [薬事管理学担当教員] [医薬品経済学担当教員]	2007	薬学部薬学科教授 佐藤拓夫, 医薬品開発における臨床評価とレギュラトリーサイエンスに関する研究 2006 薬学部薬学科教授 池田俊也, 生活習慣病の薬剤経済評価 http://www.iuhw.ac.jp/gakubu/yakugaku/
愛知学院大	2005 私 実践薬学	不明	薬学部医療薬学科・講座 (教授: 脇屋義之, 講師: 梅村雅之, 助手: 重野克郎), 医薬品の適正使用に関する研究, 医薬品の薬剤疫学的研究, など http://www.phar.agu.ac.jp/
金城学院大	2005 私 (-)		http://www.kinjo-u.ac.jp/pharmacy/
同志社女子大	2005 私 (-)		http://www.dwc.doshisha.ac.jp/gakubu/yakugaku/iryo/index.html
崇城大	2005 私 (-)		http://www.sojo-u.ac.jp/
横浜薬科大	2006 私 (-)		http://www.hamayaku.jp/
高崎健康福祉大	2006 私 薬剤疫学	2006	薬学部薬学科・研究室 (教授: 増田寛樹, 助教: 岡田裕子, 助手: 前田恵理) http://www.takasaki-u.ac.jp/dept/yaku/
松山大	2006 私 医療薬学	不明	薬学部医療薬学教育センター・研究室 (教授: 出石文男, 准教授: 山口巧), 地域における医療連携, 薬・薬連携など http://ghp01.matsuyama-u.ac.jp/~yakugaku/
長崎国際大	2006 私 (-)		http://www1.niu.ac.jp/course/pharmacy.html
大阪大谷大	2006 私 (-)		http://www3.osaka-ohtani.ac.jp/ph/
岩手医科大	2007 私 臨床薬理学	不明	薬学部・講座 (教授: 高橋勝雄, 准教授: 藤原邦彦, 准教授: 工藤賢三, 講師: 嶋崎淳, 助教: 岩淵修, 助教: 千葉健史), 本講座では, 医薬品が最も効果を発揮するための使用法, 他薬との飲みあわせによる影響, 効果と経済的面的関係などの臨床に直結した課題を研究テーマとする. また医薬品の製造販売後調査や薬物療法の疫学調査による育薬を推進する. http://www.iwate-med.ac.jp/pharm
いわき明星大	2007 私 [薬事関係法規担当教員] 社会薬学部(教員名簿)	不明	薬学部薬学科准教授 増成直美, 薬学と法学の交錯領域の研究 教員名簿では社会薬学部にもうひとりの准教授: 山崎勝弘, レギュラトリーサイエンス http://www.iwakimu.ac.jp/pharm
安田女子大	2007 私 (-)		http://www.yasuda-u.ac.jp/top/course/pharmacy/

兵庫医療大	2007 私 (-)			http://www.huhs.ac.jp/index.php/pharmacy.html
姫路獨協大	2007 私	医療経済学(教員名簿)	2008 教授: 柳澤振一郎, 医療経済学, 生物統計学, 疫学	http://www.himeji-du.ac.jp/faculty/dp_pharm/
立命館大	2008 私 (-)			http://www.ritsumeijp/pharmacy/index_j.html
鈴鹿医療科学大	2008 私	[医薬品情報学担当教官]	不明	薬学部教授 山本美智子 http://www.suzuka-u.ac.jp/education/pp/index.html

(注) 05-6*: 薬学教員名簿2005年版は発行されていないため2006年, 2005年のいずれか不詳

2004(*05) 薬学教員名簿2005年版は発行されていないため2004年, 2005年のいずれか不詳

(付記) 本表と同じものは <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~utdpm/drylab.html> で公開し, 論文掲載後2年間は適宜更新の予定である